

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（小学校用）

都道府県名	熊本県
-------	-----

I 学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	御船町立御船小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	
児童数	66	67	60	63	57	63	2	378	19

II 研究の概要

1. 研究主題

生きる力をはぐくむ国語科・算数科授業の創造
～みふねっ子の学習過程の支援の工夫と指導と評価の一体化をめざして～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

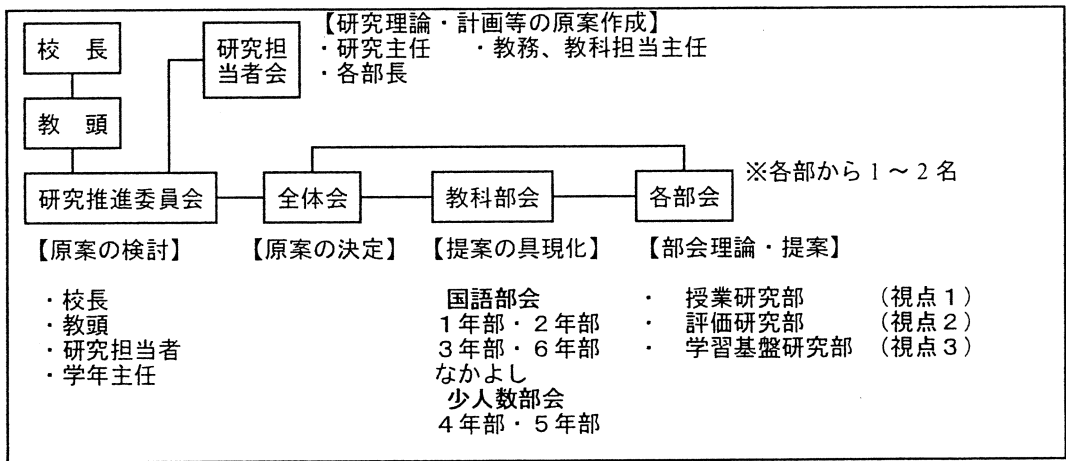
- 4・5年 算数（少人数指導）
- ・少人数指導は3年生以上で実施するが、特に2つの学年で研究を進める。
 - ・13年度からの取組で向上傾向にあるが、算数の個人差が大きいため。
- 2・3・6年 国語
- ・児童の実態から特に読むこと・書くことの指導の充実を図るため。
- 1年 算数（TT指導）
- ・児童の理解の状況や学習への心構えに差が出やすい教科、学年であるため。
 - ・実態調査から個人差が大きく、よりきめ細かな指導を行なうため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>○ テーマ 生きる力をはぐくむ国語科・算数科授業の創造 ～みふねっ子の学習過程の支援の工夫と指導と評価の一体化をめざして</p> <p>○ 研究の見通し（仮説） 視点1：読む活動を基盤とし、「書く・話す活動」を位置づけた「みふ（国）ねっ子の学習過程」の支援の在り方を工夫する。 （算）：コース選択の方法やコースによる思考の深め方と徹底指導など指導方法の在り方を工夫する。 視点2：評価基準の活用を通して、指導と評価の一体化を図るための評価の在り方・方法を工夫・改善する。 視点3：他教科や学年の系統をふまえ、日常活動と関連づけながら、児童の学習基盤と学習への心構えを培う。</p> <p>○ 研究の内容・方法 （内容） 国：学習過程の研究、言語活動の充実 算：コース選択の方法、コース別による指導展開、児童の思考を高める算数的活動の位置づけ 共：指導に生きる評価の在り方、学習基盤の充実 （方法） 3部会（授業研究・評価研究・学習基盤）に分かれての理論研、学年部での提案授業</p>
--------	--

平成16年度	<ul style="list-style-type: none"> ○ テーマ 生きる力をはぐくむ国語科・算数科授業の創造 ～みふねっ子の学習過程の支援の工夫と指導と評価の一体化をめざして ○ 研究の見通し 視点1：読む活動を基盤とし、「書く・話す活動」を位置づけた、児童(国)が主体的に取り組む「みふねっ子の学習過程」の支援の在り方を工夫する。 (算)：コース選択の方法やコースによる思考の深め方と徹底指導など指導方法の在り方を工夫する。 視点2：評価基準の活用を通して、指導と評価の一体化を図るための評価の在り方・方法を工夫・改善する。 視点3：他教科や学年の系統をふまえ、日常活動と関連づけながら、児童の学習基盤と学習への心構えを培う。 ○ 研究の内容・方法 (内容) 国：学習過程の研究、言語活動の充実 算：コース選択の方法、コースによる指導展開、児童の思考を高める算数的活動の位置づけ 共：指導に生きる評価の在り方、学習基盤の充実 (方法) 3部会(授業研究・評価研究・学習基盤)に分かれての理論研究や学年部での提案授業を中心に本年度の研究の継続を行う。特に、国語科では児童の学びを生かした学習過程の研究に取り組んでいく。算数科では各コースで「数学的な考え」の力を伸ばす実践を行う。
--------	--

(3) 研究推進体制



III 平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

(国語科)

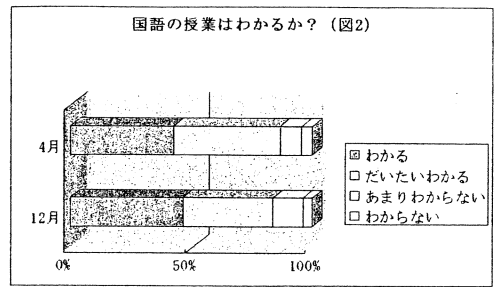
国語が好きだと感じる児童が増えた(図1)。これは、導入を工夫し、ゴールを明確にした授業展開を行なったことや表現活動を高めるための言語活動の学習を取り入れたことで、児童の国語への関心が高まったようだ。

○『国語の授業がわかる』という児童もわずかながら増加している(図2)。それは、

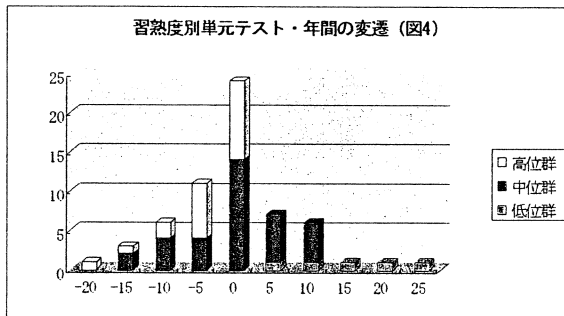
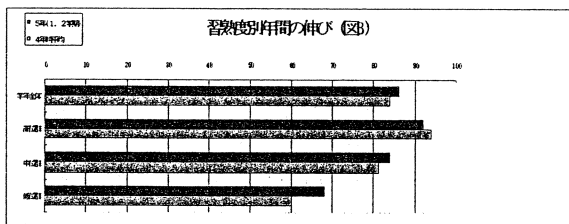
国語の学習は好きか？(図1)

時期	好き	だいたい好き	あまり	嫌い
4月	45%	45%	10%	0%
12月	55%	40%	5%	0%

児童にわかる本時のねらいを示したことで「何を学習すればいいのか」と見通しをもって活動できたからだを考える。
○指導に生きる評価活動を行なったことで、児童理解が深まってきた。児童の姿を評価に生かしていこうとしたことや評価記録に残したことで個々の長期の変容をとらえられるようになったことなどがあげられている。



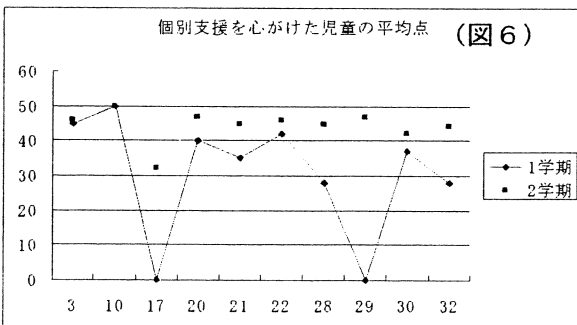
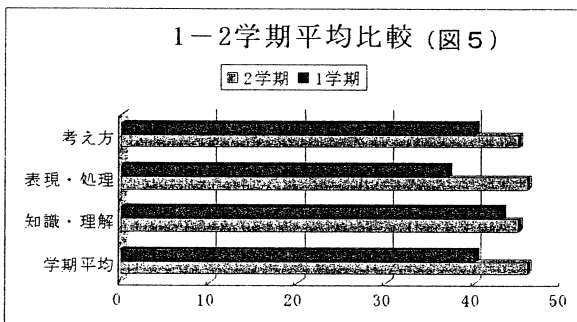
(算数科・少人数指導)



第5学年の結果をもとに考察する。習熟度少人数コースの指導により、学年の平均で3 / 100ポイント向上している。特に4年時の年間習熟度の低位群(70未満)、中位群(70~90)高位群(90以上)で分析したが、中位群、低位群で伸びが見られた。特に学習が遅れがちであった児童(低位群)一人一人の習熟が進み、平均で13.0 / 100ポイント向上している(図3)。

個人的に見てみると、58名中41名が向上している。中には20 / 100ポイント向上している児童もいる。逆に、高位群の児童の中に、習熟度が23 / 100ポイント低下した児童もいるなどの課題も明らかになってきた(図4)。

(算数・TT指導)



第1学年の結果をもとに考察する。TTの指導により、学級平均が6 / 50ポイント向上している(図5)。特に1学期個別指導を必要とした児童10名全員の大きな伸びが見られた。一人一人の習熟度が進み、平均で14.4 / 50ポイント向上している(図6)。1学期の段階では、作業面で考慮を必要とした児童もTTなどの取り組みで自分で問題に取り組もうとする姿も見られた。特に大きな伸びが見られたのはその点も大きな要因である。

個人的に見てみると、33名中、28名が向上している。ただ、1学期90点以上だった児童で9 / 50ポイント低下した児童1名、5 / 50ポイント低下した児童2名がいるなどの課題も明らかになった。

2. 今後の課題

- (国)・授業の基礎・基本を明確にしながら、さらに国語科での「みふねっ子の学習過程」を検証し、能動的な授業作りに取り組む。
- ・説明的文章でまとめたように単元で身につける力を物語文や言語事項まで広げ、活用していき、指導に生かす。
 - ・指導に生かす評価と評定についての学校としての共通化を図っていく。
- (算)・習熟度に応じたコースの適正化を図っていく。レディネステストの活用とともに、学年ごとに行なってきたコースの確認も学期ごと、領域ごとと等もっと幅広い角度で児童の実態をつかみ、習熟度コース別学習を推進していく。
- ・学習指導計画の中での速度によるコース別学習も取り入れていく必要がある。習熟度によるコースに応じた指導の工夫を図っていく。
 - ・今年度、取り組んできた評価を継続して取り組んでいく。指導者自身の評価の力量の向上を図り、指導に生きる評価活動を推進していく。

IV 学力等把握のための学校としての取組

- 県評価問題「ゆうチャレンジ」や県教育課程定着状況調査等の結果分析をていねいに行い、児童の実態把握に努める。
- 標準学力検査の結果分析に努める。
- 日頃は、レディネステストや単元テスト、学習中の評価等から、児童の習熟度を見ていくようにしている。

V フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 玉名郡天水町立小天小学校から、「少人数指導」について視察（研究主任）
- 上益城郡教科等研究会小学校算数部会の研究授業「少人数指導」（4年生で実施。4コースの学習を紹介）
- 15年度は研究の成果を冊子にまとめ、管内地区協議会の中間発表会で配布し、管内の各学校、保護者に研究の成果を普及していきたい。
- 16年度は研究発表会を実施し、広く県下に成果を発表したい。

◇ 次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T.Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無